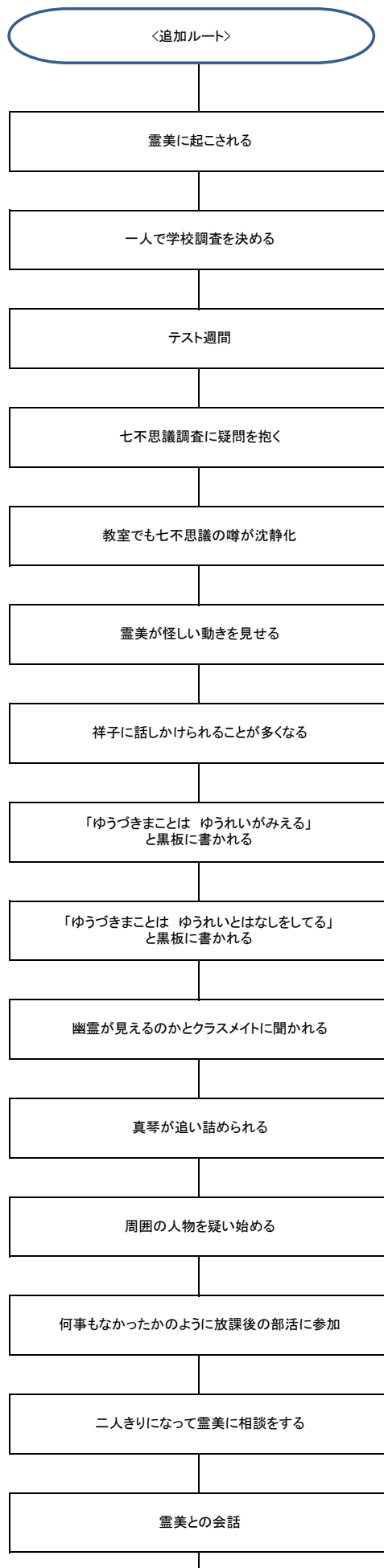




紗央、志鶴ルート攻略後に解放（BADも？）
10月8日の選択肢で霊美を三回選ぶと回想後に突入
おそらくスキップされると思うので文章は改変

BADと同じように開始
ここで霊美と会話。BADでは会話なし
「霊美もいつか消える日がくるのかもしれない」

翌日、13日（土）から調査開始
昼に学校へ行き聞き込みを始める
祥子と会話。甘いコーヒーを受け取る

15日の夜は学校に行かない→志鶴とニアミスなし
テスト期の描写はほぼカット。霊美について独白
結果的に七不思議の問題から真琴が遠ざかる

今週に入って一度も心霊現象が起こっていないことから
考えているほど危険な状況ではないのではと考える
実際には夜に真琴が近づかないため霊が暴れない

ここで初めてA子、B子と真琴の絡み
「七不思議なんてあるわけないよね」
「で、ですね！ ですね！」

廊下を歩いていると教室から出てくるところを見つけたり
教室に入っていくところを見て追っていくとすでにいないなど
話を聞くと誤魔化すか、しらばっくれる

ホームルームのあとや、放課後に手伝いを頼まれる
頼られているのだと浮かれる真琴
部活を含めて日常パート

朝、教室に入ろうとすると周囲の視線がいつもと違う
原因は黒板に書かれた真琴に関する文章
慌てて消したところで祥子がきてホームルーム

翌日もまた真琴のことが黒板に書かれている
昨日は誰かの悪戯だろうと収束したが、連日ということもあり
教室中から奇異の視線を向けられる

ホームルームのあとにB子に幽霊が見えるのか聞かれ、
「そんなわけない！！」と動揺と緊張で大声を出してしまう
教室が静まり返る

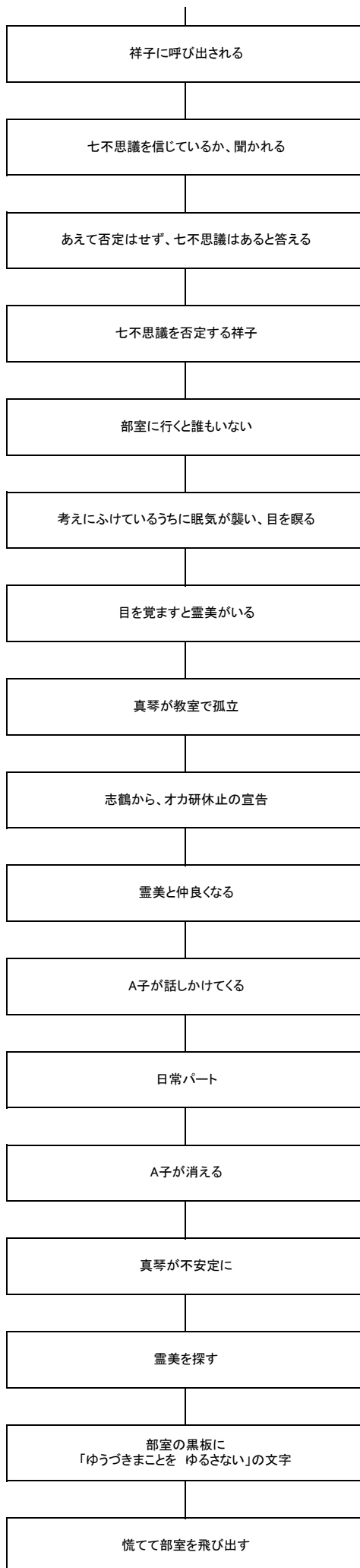
尋常ではない反応を示した真琴に訝しげな視線が集まる
教室にいても廊下を歩いていると、ひそひそとした会話が
聞こえてくる

誰が黒板に書いたのか。
真琴の靈感を知っているのは紗央と志鶴だけ。

紗央と志鶴のどちらかが書いたのか
そんなことありえない、と考えを拭い去ろうとするが会話が
ぎこちなくなってしまう。そんな自分を笑っているのか、など

こんなときばかり霊に頼る自分を蔑みつつも、
人を信じきれないと霊美に話す

信じられないなら信じなければいいんだよ、と
霊美の冷たい言葉に驚く



今までの存在感の薄さが嘘のように教室では浮いてしまう
放課後に部室へ行こうか悩んでいると、祥子に呼ばれる

なぜこのタイミングでそんなことを聞いてくるのだろうかと考え、
自分の靈感に関する噂を聞いたのだと理解する

霊により七不思議と呼ばれるような現象が起こるため
説明はせず、ただ「七不思議はある」と伝える

聞いておきながら、七不思議なんてない、と話す祥子

何か用事があれば居ないこともあるだろう、と考えつつ
どうして今に限って二人揃っていないのか、などと疑心暗鬼

回想。夢の中でさゆりとの思い出。

さゆりと霊美（大）が被ってみえる。
紗央と志鶴に会う前に帰宅
霊美が別れ際に「ゆるさない」とつぶやく

露骨ないじめや表立ってからかわれたりはしないものの、
周囲と距離を感じる

理由は志鶴ルートを参照の自粛
二人を疑いつつも心の拠り所としていたオカ研休止を受け、
距離を置かれたなどと考え落ち込んでいく

やはり霊に擦り寄ることしかできない自分を嫌悪しつつ

良い意味でいつでも興味本位なA子が真琴に興味をもつ
後ろにB子も隠れながら

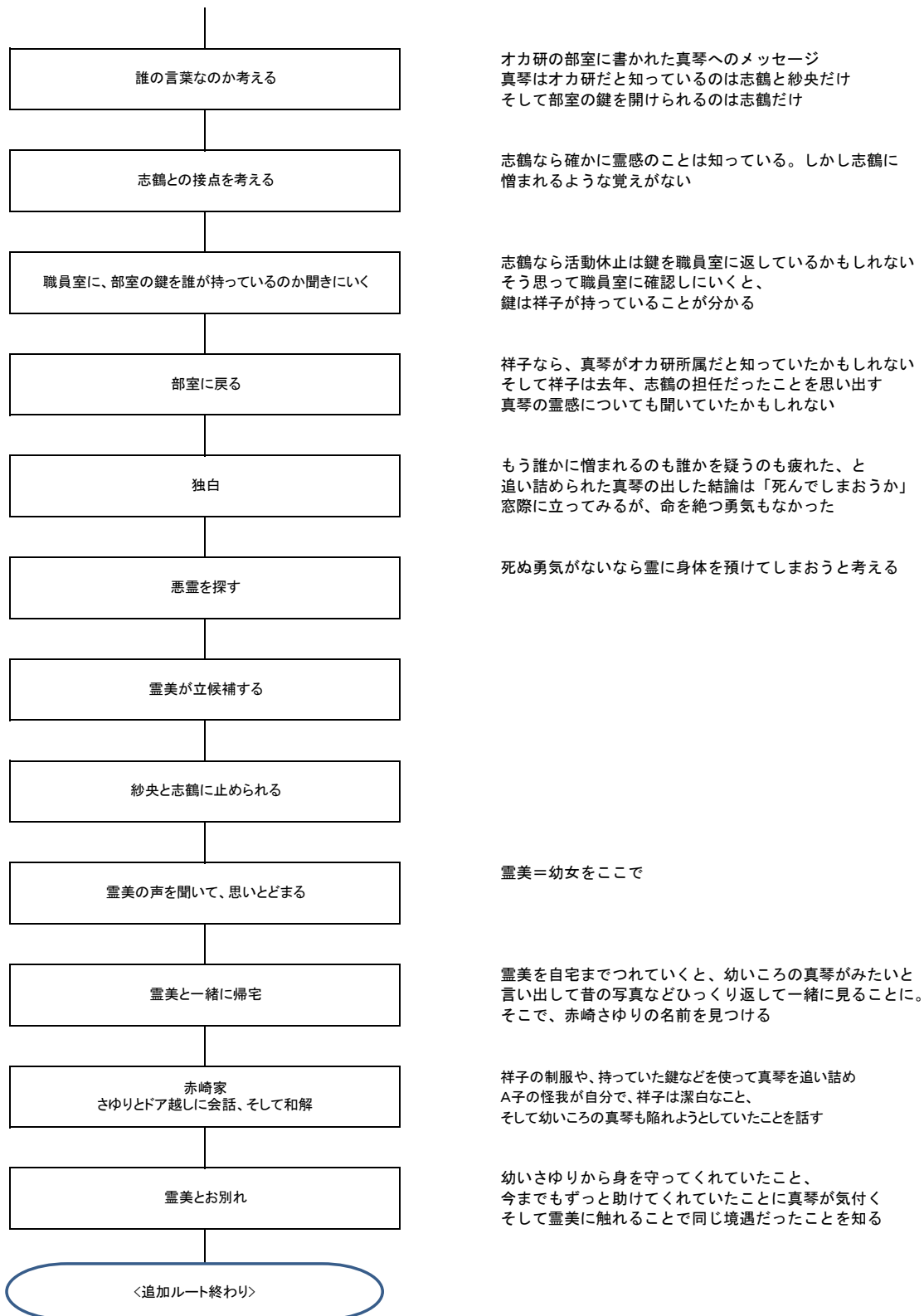
数日ほど真琴と仲良く過ごした後、学校にこなくなる

A子が入院したと祥子からホームルームで連絡が入る
真琴に近づいたA子が学校にこなくなったことで、
近づいたから、と幼い頃と同じようにクラスメイトが噂をする

どうすればいいのか分からず、霊美を探す真琴
部室にいるかもしれない、と休止中のオカ研に向かう

開いていないかと思われた鍵は開いていて、
黒板には真琴へのメッセージ

今までとは違い、明らかに真琴に対して敵意を向けた言葉



ほとんどさゆりの仕業。オカ研自肅は志鶴に告白した生徒の腹いせ。さゆりは霊美に憑かれて以来半ひきこもり。
祥子は真琴の靈感についてなんとなく察していて、妹さゆりとの間に何かあったことを含めてクラスを受け持つ前から真琴を知っていた。
しかしさゆりの性格の悪さも把握しており、真琴を攻める気はまったくない。むしろ見守るスタンス。祥子さん23～25歳。
さゆりは最後まで姿を見せないが、容姿は霊美に近い。というより霊美がさゆりをイメージ。
A子は楽しそうだから、B子はどうせ噂だろうと確認のため真琴に声をかけた。C子は面倒ごとには関わらない。
真琴と紗央の出会いには霊美の意図的なもの。